

2019/2/1 第 12 回パーム油学習会

## アブラヤシ農園と人権の問題～インドネシアの「希望の地」パプア州から

講師：ディアント・バクリアディさん（インドネシア土地問題情報センター代表／京都大学東南アジア研究センター招聘教授／前インドネシア国家人権委員会副会長）

### 【人権抑圧から森林破壊・アブラヤシ開発へ】

本日はウータンでお招きください、ありがとうございます。

私は、1993年に西パプアに行ってから、インドネシアのアブラヤシの調査・研究を始めました。世界第 2 位の島パプア・ニューギニア島の西半分が西パプアです。

西パプアの面積は 4,200ha で、インドネシア国土の 22%を占め、人口はインドネシアの 1.6%で、人口密度は

10 人/km<sup>2</sup>です。森林区分地域は 3,410 万 ha(同国 2014 年環境林業省)で州面積の 81%に相当し、実際の森林面積は 3,250 万 ha(同 77%)となっています。2016 年までに 580 万 ha の森林が伐採と木材生産地になりました。

西パプアを歴史的に遡ると、1969 年のニューヨーク協定と、[住民投票]の後にインドネシア領になったのです。1%のローカル・エリート、地元有力者による投票の[住民投票]で決められ、99%の住民支配を行ったのです。[代表する人]が投票する形で、アンフェアな合併でした。何故なのか…？それは西パプアが世界的にも巨大な量の金、銅を産出するからです。米国企業のフリーポート社が 1969 年以前に現地事務所をティミカへ設置し、この鉱物資源開発と周辺の木材開発を促すよう、有力者たちが投票をしたのです。このフリーポート社の鉱山開発や木材開発に対してパプア人は反対したのですが、軍・警察の弾圧により 80 万人が殺害など虐げられることになったのです。

西パプア州は、地方政府が森林開発やアブラヤシ 開発の事業許可権を持ち、インドネシア中央政府が 農園開発、森林転換許可を含む開発利用権を与える形です。

ローカル・エリート、コミュニティの長、氏族 首長らが、軍・警察、その他国家組織と協働して、事業運営の便宜を図ったのです。これら関係利害者に金錢を支払うことで、企業は無償での木材伐採をした後にアブラヤシ農園開発を行うことで利益を得ています。

### 【西パプアでのアブラヤシ開発】



1991 年に大きなアブラヤシ企業がパプアに来て、開発が進み出しました。2014 年、西パプアのアブラヤシ農園許可面積は 130 万 ha(大阪府の約7倍)の大きさになりました。インドネシアとマレーシアの企業が世界の 85%のパーム油を生産していますが、西パプアでもマレーシア企業(リンブナン・ヒジャウ社グループ等)が生産をコントロールしているのです。2016 年に、130 万 ha(インドネシア環境林業省/Forbers 2014)から更に面積を広げています。

最初のアブラヤシ開発は、1980～81 年に北スマトラの国営プランテーション企業(PT.TPN II)が核となり 250 万 ha の中核農園を作りました。主目的は、国境の「戦略的地点」の開発・防衛であり、「重要軍事化地域」、「重要軍事作戦地帯」の一部としたのです。現在、政府の計画では、パプアに約 400 万 ha(州面積の約 10%)のアブラヤシ農園開発を予定しています。次にインドネシアのパーム油企業と市場を見てみましょう。

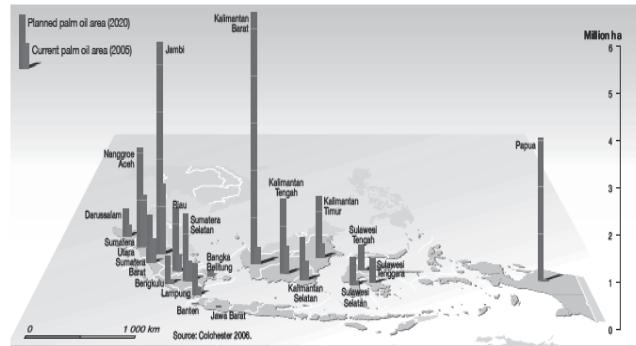


### 【インドネシアのパーム油産業と市場】

2017 年に 1,240 万 ha のアブラヤシ農地から 3,540 万トンのパーム油と、710 万トンのパーム核油の生産(インドネシア農業省 2017 年)がされており、大規模農園の 56%が森林への不法侵入によるものです。さらに 1,300 万 ha がアブラヤシ農園に転換可能として、2025 年には 2,500 万 ha になる(インドネシア政府計画 2004 年)としてい

ます。スマトラ(600 万 ha)や西カリマンタン(900 万 ha)も広大なアブラヤシ開発地ですが、パプアは加速度的に開発がされています。

インドネシアの 2010 年輸出先はインド(27%)、中国(12%)、オランダ(12%)、マレーシア(10%)、バングラデシュ(4%)、ニュージーランド(4%)、イタリア(4%)等でした。2017 年は少し変わり、インド(15%)、中国(14%)、オランダ(5%)、マレーシア(4%)、イタリア(4%)、スペイン(4%)等となりました。しかし大半がアジア市場向けであり、「持続可能なパーム油生産」を目指していません。2016 年以降、EU への再輸出が増加し、日本市場への見通しからインドネシアの増産計画が再確認されています。



### 【日本の温暖化政策、インドネシアの温暖化政策】

日本では温暖化防止政策が進まず、バイオ・ディーゼル発電の拡大政策で削減せざることがあると聞いています。日本は京都議定書を作成したように、温暖化防止を積極的に進める立場でしょう。日本がバイオ・ディーゼル発電の拡大政策でパーム油発電所の新設を次々としていくなら、インドネシアでのパーム油輸出の新たな潜在的な市場となり、アブラヤシ農園拡大を後押しします。一方、EU ではバイオ・ディーゼル発電利用をなくす方向です。インドネシアでは昨2018年9月にアブラヤシ農園新規開発をモラトリアム(一時停止)にすると、政府が決めました。インドネシアでは 2015 年の大規模森林火災で日本以上の CO<sub>2</sub> 排出量となりましたが、現在の日本では「再生可能」エネルギー発電能力(13.5GW)の 40%がパーム油を燃料とし、2030 年までに発電用バイオマス利用をさらに増加する計画です。

### 【希望の大地は…】

木材伐採からアブラヤシ開発となり、アブラヤシ農園でパプアが次々と変わっています。土地収奪と生態系の破壊や土壤侵食・流出を引き起こし、インフラ計画も無茶苦茶です。加えて人権抑圧も続いている。南部では 31 人と地元の 21 人が殺されました。フリーパプア運動(パプア分離独立運動)では分離独立を掲げ、地域での闘争を続けていますが、2004 年以降も弾圧が続き、政治的に安定していません。それは金が絡んでいるからです。非パプア人による経済支配・民族 支配が続き、今もそれが拡大しています。

### 【ディアントさん(講師)への質疑(Q&A)】

Q: 西パプアが独立したらどうなりますか。

A: ティモールの独立武装闘争の状況とは違い、異常なアブラヤシ農園開発が進んでいます。もし、独立してもどのようになるか判りません。

Q: パプアでの小農について教えてください。特にパプアのアブラヤシ農園労働者について聞きたいです。

A: 先住民は特に南部ではサゴヤシ中心の食事であり、そこを

破壊するアブラヤシ農園開発は先住民の土地利用権とも絡み、問題だらけです。小農より巨大企業の利益となっています。政府が開発許可を与えています。また、プランテーション労働者の 8 割がジャワ人ですが、パプア人を少数派にしたり、インドネシア化するための政策でしょう。100 万人が入植しています。本来、土地は伐採が終わったら先住民に返すべきですが、そうでなくアブラヤシに転用しています。インドネシア人が約 150 万人住み、州は中央政府と同じスタンスで投資しています。

